



支部だより No.155

日本山岳会京都・滋賀支部

2024年6月15日

巻頭言

日本山岳会京都・滋賀支部新支部長として

支部長 幣内規男

2024年度第39回日本山岳会京都・滋賀支部総会にて、急遽支部長の大役を推薦され、本部理事会より支部長に任命されました。日本山岳会に入会して、早や49年になろうかと思いますが、まさかこんなに難しい任務が回って来て、出来るのか不安な思いでいっぱいです。しかし、一所懸命頑張る所存です。皆様のご支援、ご協力がないと務まりませんので宜しくお願いします。

私は1945年8月5日生まれです。太平洋戦争の末期に大阪大空襲が始まりました。第6回目の堺大空襲の時、私は母のお腹にいました。母は3才の姉の手を引いて、リヤカーに布団と少ない家財を乗せて、京都の実家に疎開しました。途中の山崎で見ず知らずの農家の人が、母と姉の疲れ果てた姿を見て、「もう京都へ着いたので、安心して泊まっていきなさい」と親切にしてくださいました。母は他界するまで私に言っていました。

父は当時、海軍上等兵で、中国満州の大連に居ました。私が生まれて2年目に父は舞鶴に帰国を果たしましたが、1年後に姉は腸閉塞で亡くなりました。

現在のウクライナでも、同じような悲劇を繰り返している人間がいる事を忘れてはなりません。

私を日本山岳会に入会することを勧めて頂いたのは、少し仕事の関係もある、8000m峰のマナスルに世界初登頂された今西壽雄さんです。

当時は関西支部に所属して楽しい社会人生活を過ごしました。少ない休暇は山登りで消えてしまい、同僚からは「山はそんなに楽しい」なんて言われながらも、楽しい山登りばかりでした。

日本全国の山々に登ることが出来ましたし、良き先輩に導かれ、ご指導頂きながら登りました。技術は上がりませんでした。酒を酌み交わす技量は上がりました。その技術は、会社生活では一番役に立ちました。

日本を出て、数カ国の海外登山も楽しむ良き時代も経験させて頂きました。低成長の今の若者が可哀想に

思える程の、当時の日本は急成長の時代でした。そんな時代の中、私はあまり立派な山歴も無いまま現在に至ってしまいました。

日本山岳会は長い歴史を持った素晴らしい全国組織の山岳会だと常々思っております。良き先輩の指導を糧と一緒に登って、話しを聞き、語り合える会として、みんなで発展させて行きたいですね。

パソコンやメールやAI〈人工知能〉に負けない、人間になりましょう。パソコンやメールやAI〈人工知能〉では、温もりを感じる形での人の笑顔や表情は何う事は出来ません。どうか会員皆様は積極的に、支部山行や全国の山行に参加して下さい。倶楽部ライフは、平等にして楽しいものです。

繰り返しますが日本山岳会は長い歴史を持った素晴らしい会だと常々思っています。平和で山登りが楽しめて、人と人が楽しく、そして語り合え、教えあえる支部の運営が会員みんなで出来たら、それ以上のことはないと思う次第です。

「日本山岳会京都・滋賀支部2024年度 (令和6年度)第39回総会」報告

日本山岳会京都・滋賀支部事務局長 伊原哲士

日本山岳会京都・滋賀支部の諸活動について日頃よりご協力を頂き感謝申し上げます。

日本山岳会京都・滋賀支部2024年度(令和6年度)第39回総会は4月6日(土)に京都・鴨沂会館にて開催しました。会場も午後1時から3時までしか取れませんでした。総会に使える時間が1時間程度となり、恒例の総会の講演会も断念せざるを得ませんでした。この為、高齢会員や遠方の会員も多い中で、ご不便をお掛けした総会開催となりました。

【要旨】

・2024年4月6日(土)に鴨沂会館にて日本山岳会京都・滋賀支部第39回総会開催を開催。総会議長は、総会司

会者の駒井治雄委員の発議で松下征文委員を選任しました。

総会出席 27 名。総会委任状 43 人。支部会員・準会員総数 130 名中、過半数を超える 70 名の参加で総会成立を確認しました。総会後の懇親会参加は 18 名でした。

議決内容は「2023 年度事業（案）報告」「2023 年度決算（案）報告」、「2024 年度支部役員選出」、「2024 年度事業計画（案）」「2024 年度予算（案）」の 5 点。全てに反対はなく成立しました。

- ・新型コロナウイルスは第 5 類に緩和されたとは言え、収束の見えない困難な中で、様々な支部例会が取り組まれました。民俗学者でもある八木透監事と委員とで 2022 年 10 月から 2024 年 3 月まで京都新聞「信仰と伝承・京滋の里山を歩く」取り組まれ連載を終えました。一連の京都新聞の連載については、何らかの形で「書籍」にして残すことが確認されました。
- ・日本山岳会 120 周年記念事業としての「古道調査活動」は村上正支部古道調査委員長、岡田茂久会員等の尽力で支部担当分の「古道調査」を完成させることが出来ました。
- ・安全登山活動の一つとしての日本山岳会の特別事業補助金の対象事業の「健幸登山教室」は旺盛に実施されました。しかし、講師不足の為、今期は休止します。
- ・総会の中で「登山文化の継承」「若手登山家の育成と次世代への支部の継承」「安全登山」「自然保護等の日本山岳会としての諸活動の取り組み」など課題は山積していることを確認しました。

「2023 年度事業報告」

支部の通常の例会である「北山探訪」「写真サークル」「未知の山旅」「シャクナゲ山行」「テント泊登山」「スケッチ山行」「歴史と文化の山旅」「大文字納涼山行」「文学の山々」「今西錦司レリーフの集い」等が取り組まれました。「登山講習会」は人工壁・沢登り・岩登りが取り組まれました。

日本山岳会の会員増強事業の一つとしての「特別補助金」を支部の「健幸登山教室」は引き続き受給しました。新型コロナウイルスの蔓延禍の困難な中で、実技登山教室 10 回が予定されて 9 回の実施となりました。

山の日記念事業は 2024 年 1 月 20 日（土）に京都市職員会館「かがわ」で 40 名の参加で実施されました。講師は堀大輔佛教大学教授で演題は「泰澄和尚と白山信仰」でした。5 支部の懇親登山は石川支部の担当で石動山にて実施されました。「5 支部スキー」は雪不足と会員の高齢化などで中止となりました。

「2023 年度決算報告」

2023 年度は、支部会員減、不況下での広告収入減などで厳しい会計が続きます。会員・会友・友の会の会費の滞納問題も発生しております。対策が必要です。

「支部旅費」の支出がゼロでした。主に委員等が全国との交流に参加した場合、旅費の一部を支部から助成するものでしたが、請求はありませんでした。参加者が全て自費で活動したものと思われます。次世代への活動の継承を考える時、請求すべきとの監事の意見が付帯されました。

【2024 年度支部役員】

2023 年度 4 月の支部総会で笠谷茂副支部長が総会で新支部長に推薦され、本部理事会から京都・滋賀支部長に任命されました。ところが、2024 年 1 月頃から体調不良となり、総会直前の 4 月 3 日の支部役員会で笠谷支部長は支部長退任を申し出てきました。支部長代行を置くことも検討されましたが、本人の意思は固く、支部役員会で退任を確認しました。

総会では、新支部長に幣内規男副支部長が推薦され本部理事会から京都・滋賀支部長に任命される予定です。副支部長には駒井治雄委員が選任されました。新たな委員として瀬崎暢子会員が選任されました。笠谷茂支部長、藍野裕之委員、宇都宮道人委員、村上正委員は 2023 年度で退任します。

「支部だより」編集委員は幣内規男支部長、野村綾子監事、竹下節子委員、藤綱珠代委員の 4 人が選任されました。4 人中 3 人が女性編集委員となり活躍が期待されます。

他の役員の変更はありません。今後も支部の役員の若返りと活性化に積極的に取り組みます。

「2024 年度事業計画」

次世代の支部運営の「担い手会員」の減少により引き続き困難な運営が予想されます。

支部例会は「シャクナゲ山行」「北山探訪」「山岳展望と秘湯の旅」「写真サークル」「テント泊登山」「スケッチ山行」「歴史と文化の山旅」「古道を歩く」「大文字納涼山行」等と様々なテーマで取り組まれます。会員の高齢化に配慮した例会が多いですが、今後は若い会員のレベルの高い例会の取り組みも課題となります。「安全登山」「命と健康を大切にする」立場での登山運営が予想されます。他支部との交流も同様です。

他支部との交流では、「関西支部 90 周年」「5 支部懇親山行」等が取り組まれます。

「2024 年度予算」

2024 年度予算も、諸物価の高騰などで予想できない

会計が続きます。齋藤惇生顧問から支部へ100万円の寄付があり、「齋藤基金〈仮〉」として支部会計に計上されました。次世代への支部の継承と支部活性化の為に活用する所存です。引き続き、支部会計の「安定と健全化」に取り組みます。

【2024年度京都「今西錦司賞」】

2024年度の京都「今西錦司賞」は該当者なしでした。

選考委員会（齋藤惇生委員長、杉山イタル委員、岡田茂久会員）を代表して齋藤惇生委員長より「次年度に期待したい」旨の説明が総会でありました。総会で会員より、支部の「古道調査委員会」に2025年度の京都「今西錦司賞」を推薦したいとの意見が提案されました。



会員の矢野正明さんの山道具絵

《日本山岳会京都・滋賀支部 2024 年度事業計画》

1. 例会山行、講習会、総会、講演会等

(京都・滋賀支部)

(4月)

2024年4月6日(土)、第39回通常総会；鴨沂会館

出席27名、委任状43名。懇親会18名。

担当：伊原事務局長

2024年4月20日(土)、北山探訪；地藏杉

担当：田中顧問

2024年4月28日(日)、シャクナゲ山行；武奈ヶ岳

担当：松下委員

(5月)

2024年5月10日(金)～11日(土)、山岳展望と秘湯；

富士山と南アルプス展望、山中湖周辺秘湯

担当：幣内支部長

2024年5月11日(土)、北山探訪；ハナノ木段

担当：八木監事

2024年5月12日(日)、今西錦司レリーフの集い；今

西錦司レリーフ

担当：駒井副支部長

2024年5月20日(月)、春のスケッチ；青葉の嵐山から

愛宕山を臨む

担当：山田会員

(6月)

2024年6月8日(土)～9日(日)、テント泊登山の会；

金剛堂山

担当：田中顧問

(7月)

2024年(夏)、写真サークル；京北片波川源流ガイド

ウォーク

担当：野村監事

2024年7月27日(土)、大文字山納涼山行；大文字山

担当：伊原事務局長

(8月)

2024年8月17日(土)、歴史と文化の山旅；三重松阪

城と本居宣長を訪ねる

担当：伊原事務局長

(9月)

2024年9月7日(土)、北山探訪；奥ノ谷山

担当：八木監事

(10月)

2024年10月19日(土)、北山探訪；掛橋谷山

担当：田中顧問

2024年10月、ダンダ坊整備；ダンダ坊

担当：真名子委員

2024年(秋)、京都トレイル山行；稲荷大社から蹴上

担当：駒井副支部長

2024年10月27日(日)～28日(月)、山岳展望と秘湯；

伯耆大山展望、千原温泉の湯等

担当：幣内支部長

(11月)

2024年(秋)、写真サークル；おにゅう峠の雲海と百里ヶ岳

担当：野村監事

2024年(秋)、伝承と信仰を学ぶ山旅；賤ヶ岳

担当：八木監事

(12月)

2024年12月14日(土)、北山探訪；(忘年山行)

担当：田中顧問

2024年12月14日(土)、歴史と文化の山旅；粉川「竜

門山」

担当：伊原事務局長

2024年12月14日(土)、武奈ヶ岳の日；武奈ヶ岳の日

担当：松下委員

(1月)

2025年1月15日(水)、支部新年会；南禅寺「順正」

担当：伊原事務局長

2025年1月18日(土)、北山探訪；ユルメ山

担当：八木監事

(2月)

2025年(冬)、伝承と信仰を学ぶ山旅；虎御前山

担当：八木監事

(3月)

2025年3月15日(土)～16日(日)、歴史と文化の山旅；

岐阜県苗木城登山と阿智村の星空

担当：伊原事務局長

(未定)、写真サークル；陀羅佛小屋(夜空と早朝の空気)

担当：野村監事

(未定)、古道を歩く；未定

担当：未定

(未定)、山水会(兼、山の日イベント)；(未定)

担当：伊原事務局長

(全国他団体関係)

イベント

2024年5月17日(金)～19日(日)、熊野古道集中山行；

熊野古道

2024年5月25日(土)～26日(日)、日本山岳会全

国支部懇談会；神奈川支部担当

2024年11月16日(土)～17日(日)、第24回5支

部合同懇親山行；福井支部担当

2024年12月7日(土)、日本山岳会年次晩餐会；京王

プラザホテル(新宿)

2. 支部役員会、各種委員会、活動、その他

(京都・滋賀支部定例役員会)

京都・滋賀支部役員会；毎月第1水曜日に開催(祝

日の場合は第2水曜日)

費用削減、役員・委員負担軽減のため一部 ZOOM 開

催を検討

(部会活動)

総務部会

図書

ホームページ

情報発信強化に向けたHP改編

支部だより：費用削減、編集担当者負担軽減のため

配信方法変更電子化を進める

155号 2024年6月15日(土)発行予定

156号 2024年9月15日(日)発行予定

157号 2024年12月15日(日)発行予定

158号 2025年3月15日(土)発行予定

友の会：2024年度末で集約、正会員への移行を促す

40周年事業検討、規約整備等

自然保護：部会から位置づけ変更

山行部会：2024年8月開催予定

海外部会

(その他委員会)

「今西錦司レリーフを守る会」

駒井治雄(委員長)、斎藤惇生、中川寛、大槻雅弘、
野村綾子

「今西錦司賞」選考委員会

斎藤惇生(委員長)、杉山イタル、岡田茂久

ダンダ山ダンダ坊森づくりの会

(支部関連の会)

京都陀羅佛会

藤尾の森づくりの会・里山クラブ(滋賀県「結いの
森(藤尾の森)」)、定例作業日毎月第2土曜日)

2024年度 日本山岳会京都・滋賀支部役員

顧問	斎藤 惇生	酒井 敏明	薬師 義美	田中昌二郎
支部長	幣内 規男			
副支部長	駒井 治雄			
事務局長	伊原 哲士			
会計	仲井 照雄			
監事	八木 透	野村 綾子		
委員	浅原 明男	上田闊三郎	須藤 邦裕	瀬崎 暢子
	藤綱 珠代	松下 征文	真名子栄一	竹下 節子
				土井 文雄
退任	宇都宮道人	3月31日退会		
	藍野 裕之			
	笠谷 茂			
	村上 正			

2023年度 日本山岳会京都・滋賀支部 収支決算書

(2023年4月1日～2024年3月31日)

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
支 部 会 費	266,000	236,000	-30,000	2,000円x113名+複数年分等 10,000円(該当3名)
会 友 会 費	22,500	16,000	-6,500	2,500円x4名+複数年分等 6,000円(該当2名)
友 の 会 会 費	117,000	75,000	-42,000	3,000円x25名)
支 部 助 成 金	262,000	294,000	32,000	
事 業 収 入	0	0	0	
雑 収 入	120,000	245,102	125,102	広告料、銀行利息、山口氏寄付、関本氏協力金、山水会雑収入
繰 越 金	366,158	366,158	0	
収 入 合 計	1,153,658	1,232,260	78,602	

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
会 議 費	60,000	54,300	-5,700	委員会、会議室使用料
通 信 費	100,000	45,665	-54,335	支部だより他郵送料、支部ホームページ更新料
事 務 諸 費	500,000	442,109	-57,891	支部だより印刷代(3回分)、事務費用
渉 外 費	20,000	0	-20,000	
旅 費	100,000	0	-100,000	
装 備 備 品	30,000	0	-30,000	
事 業 費	280,000	25,220	-254,780	講演会会場費
予 備 費	63,658	664,966	601,308	
支 出 合 計	1,153,658	1,232,260	78,602	

2023年度 特別会計収支決算書

遭難対策基金

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
雑 収 入	0	0	0	預金利息なし
繰 越 金	1,000,331	1,000,331	0	
合 計	1,000,331	1,000,331	0	

支出の部

支 出	0	0	0	
次 年 度 繰 越 金	1,000,331	1,000,331	0	定額貯金 900,000 + 総合口座 100,331
合 計	1,000,331	1,000,331	0	

海外登山積立金

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
雑 収 入	8	8	0	預金利息
繰 越 金	1,648,695	1,648,695	0	
合 計	1,648,703	1,648,703	0	

支出の部

支 出	0	0	0	
次年度繰越金	1,648,703	1,648,703	0	定額貯金 1,000,000 + 総合口座 648,703
合 計	1,648,703	1,648,703	0	

今西賞基金

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
雑 収 入	0	0	0	預金利息なし
繰 越 金	267,875	267,875	0	
合 計	267,875	267,875	0	

支出の部

支 出	20,000	20,100	100	差額は送金手数料。
次年度繰越金	247,875	247,775	-100	定額貯金 200,000 + 総合口座 47,775
合 計	267,875	267,875	0	

貸借対照表

(2024年3月31日現在)

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 及 び 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産		差引正味財産	4,731,775
現 金	0		
郵 便 貯 金	1,834,966		
特 別 会 計	2,896,809		
(遭難対策基金)	1,000,331		
(海外登山積立金)	1,648,703		
(今西賞基金)	247,775		
合 計	4,731,775		

注)「郵便貯金」には、斎藤惇生先生寄付(100万円)および特別事業補助金(17万円)を含みます。

財 産 目 録

(2024年3月31日現在)

(単位：円)

科 目	金 額	適 要
現 金	0	手許有高
郵 便 貯 金	4,731,775	ゆうちょ銀行
		No.14430-11208411 通常 1,489,616
		No.01070-3-33177 振替 345,350
		遭難対策 No.14430-11208411-5 定額 900,000
		遭難対策 No.14420-37228091 通常 100,331
		海外登山 No.14430-11208411-7 定額 1,000,000
		海外登山 No.14420-37228091 通常 648,703
		今西賞 No.14430-11208411-6 定額 200,000
		今西賞 No.14420-37228091 通常 47,775
		4,731,775
資 産 合 計	4,731,775	

監 査 報 告 書

私たちは、2023年度における会計決算について、帳簿ならびに、関係書類を監査したところ、的確に処理され、正確であることを認めます。

2024年 4月 3日

監 事 八 木 透 ⑩

監 事 野 村 綾 子 ⑩

2024年度 日本山岳会京都・滋賀支部 収支予算

(2024年4月1日～2025年3月31日)

収入の部

(単位：円)

科 目	前年度決算	今年度予算	差 額	備 考
支 部 会 費	236,000	262,000	26,000	2,000円×131名(準会員を含む)
会 友 会 費	16,000	22,500	6,500	2,500円×9名
友 の 会 会 費	75,000	42,000	-33,000	3,000円×14名
支 部 助 成 金	294,000	266,000	-28,000	2,000円×121名+入会6名
事 業 収 入	0	0	0	
雑 収 入	245,102	120,000	-125,102	広告収入、銀行利息
繰 越 金	366,158	664,966	298,808	
収 入 合 計	1,232,260	1,377,466	145,206	

支出の部

科 目	前年度決算	今年度予算	差 額	備 考
会 議 費	54,300	60,000	5,700	委員会等会議室使用料
通 信 費	45,665	100,000	54,335	支部だより他郵送料(値上げ加味)
事 務 諸 費	442,109	500,000	57,891	支部だより印刷代、事務費用
渉 外 費	0	10,000	10,000	他支部等交際費
旅 費	0	100,000	100,000	全国支部懇談会等参加旅費
装 備 備 品	0	200,000	200,000	ホームページ関係追加費用等
事 業 費	25,220	200,000	174,780	講習会、40周年記念企画対応、記録整備等
予 備 費	664,966	207,466	-457,500	
支 出 合 計	1,232,260	1,377,466	145,206	

特別会計

遭難対策基金

収入の部

(単位：円)

科 目	前年度決算	今年度予算	差 額	備 考
雑 収 入	0	0	0	
繰 越 金	1,000,331	1,000,331	0	
合 計	1,000,331	1,000,331	0	

支出の部

支 出	0	0	0	
次 年 度 繰 越 金	1,000,331	1,000,331	0	
合 計	1,000,331	1,000,331	0	

海外登山積立金

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	予算との差額	備 考
雑 収 入	8	8	0	
繰 越 金	1,648,695	1,648,703	8	
合 計	1,648,703	1,648,711	8	

支出の部

支 出	0	0	0	
次 年 度 繰 越 金	1,648,703	1,648,711	8	
合 計	1,648,703	1,648,711	8	

今西賞基金

収入の部

(単位：円)

科 目	前年度決算	今年度予算	差 額	備 考
雑 収 入	0	0	0	
繰 越 金	267,875	247,775	-20,100	
合 計	267,875	247,775	-20,100	

支出の部

支 出	20,100	20,000	-100	
次 年 度 繰 越 金	247,775	227,775	-20,000	
合 計	267,875	247,775	-20,100	

斎藤惇生顧問寄付基金（仮称）

収入の部

(単位：円)

科 目	前年度決算	今年度予算	差 額	備 考
雑 収 入	1,000,000	0	-1,000,000	
繰 越 金	0	1,000,000	1,000,000	
合 計	1,000,000	1,000,000	0	

支出の部

支 出	0	0	0	
次 年 度 繰 越 金	1,000,000	1,000,000	0	
合 計	1,000,000	1,000,000	0	



会員の矢野正明さんの山道具絵

活動報告

若狭駒ヶ岳 スキー山行

藤綱珠代

今年のスキー山行は、暖冬の影響で例年よりかなり少ない積雪の中、実地された。

朝 7時45分道の駅「若狭熊川宿」にメンバー6名集合。乗用車に分散し、河内川ダムピクニック広場へ向かう。まだ2月にも関わらず、道中に雪が全く無い。

8時、ピクニック広場へ到着。身支度を整え装備を確認。私は初めてのワカンを四苦八苦しながらザックに装着。あまりにも周囲に雪が無いので雪山装備と季節感が一致しない。

8時10分 ピクニック広場から林道へ歩き出した。道沿いにはかつての山葵田があり、川が流れている。相変わらず雪は無く雨上がりの濡れた道を進んで行く。途中、白い小さな丸い花を所々で見かける。三椏だ。茶色の土の斜面と木立の隙間にポツリポツリ。三椏は紙の原材料で紙漉き、書道のかな用などに使用される。

しばらくすると漸くショートカット取付きに到着する。中々の急斜面で、おまけに雨の後なので滑りやすい。慎重に踏ん張りながら登る。雪があればなあ、と思った。

ジグザグに登り切るとやっと雪に出会えた。ここで初めて皆、スノーシューやワカンを装着する。雪の状態は、ふわふわの新雪ではなく「もなか」である。ラッセルを交代で行うが雪が重いので疲れる。それでも雪があるということは嬉しい。息を弾ませながら進んで行く。葉を落としたままのすっきりした木々の間で休憩。例年よりかなり少ない積雪ではあるものの、雪があつて安心する。私はリーダーや先輩方からワカンの歩き方や注意点を教えていただいた。風がない穏やか



若狭駒ヶ岳

な陽射しが届きはじめる中、山頂を目指して出発する。雪と木の根があらわになった道で歩きにくい。ワカンが引っ掛かるので転けそうになる。周りの景色が開け、琵琶湖や福井側の山、そして海が微かに見える。頂上だ。若狭駒ヶ岳 780.1m。雲間が切れ、青空が顔を覗かせる。皆の顔がほころぶ。気持ちが良い。各々に昼食を頬張りながら景色を堪能した。記念写真を撮り下山準備に取り掛かる。足取りも軽く、なのは先輩方だけで、下りが苦手で雪に慣れない私はもたもたである。そんな私に的確に歩き方の指南をリーダーがしてくださった。2時45分無事ピクニック広場に下山。

身支度を整え、若狭熊川宿で暖かい珈琲を飲み、帰路についた。

実地日：2024年2月17日（土）

参加者：須藤邦裕（CL）、笠谷 茂（SL）、矢野達子、栗野雅巳、竹下節子、藤綱珠代

山岳展望と秘湯の旅〈劔岳・立山展望、鯉温泉〉

伊原哲士

関西学生山岳連盟〈AAVK〉は私たちが最後の世代だろう。関西の大学山岳部が次々と部員不足で消滅し、関西学生山岳連盟も自然消滅した。その頃の世代が、「関西学生山岳連盟OBの会」と称して年一回集まっている。「OBの会」というのは、関西学生山岳連盟は歴史〈1915年創設〉がありすぎて、限られたメンバーだけで集まっているからです。最後の線香花火の輝きの世代が、何を話すわけでもなく、宿泊して酒を飲みながら歓談している。

5年に一度、劔岳山麓の馬場島に集う。馬場島には各大学山岳部の慰霊碑が点在する。ヒマラヤで遭難し帰ってこなかった人の慰霊碑もある。或る意味、馬場島は鎮魂の場でもある。

2年ほど前だったか、大阪市立大学山岳部OBの水江清一さんが、馬場島からの「関西学生山岳連盟OBの会」の集いの帰途の車の中で、「富山に来たから温泉行こうか」と呟く。大学は違うが、水江さんは先輩筋。急いで温泉を探す。こういう時は「やはりアノ人しかいない」と京都・滋賀支部の「秘湯マニア」の幣内規男さんに電話する。「馬場島からの帰りか、鯉温泉に行き」とあっさりと温泉の名前が出てきた。銭湯料金で3つの源泉が楽しめる不思議な温泉だった。

今回は、「山岳展望と秘湯の旅〈劔岳・立山展望、鯉

温泉)」とあったので、躊躇せずに申し込んだ。

2月18日(日)。2月中旬とは言え、暖冬だ。2週間前に雪が降った。以降は雪もなく走路の高速道路はノーマルタイヤでも走行できる状態だった。天気は少し雨模様。「山岳展望は期待できない」と思っていたら高速の黒部辺りで薄曇りながら、劔岳、立山などの遠望が広がる。劔岳の大窓小窓も明確に見える。長いことこの辺りを通してここまでの展望は皆はじめてと言う。

昼食は富山のソウルフードと言われる糸庄本店の「ホルモンうどん」を食べた。人気店なので並んで食べて2時間ほどの時が過ぎた。

鯉温泉に直行。開湯は約300年前。漁師が母の腫物に効く薬を求めたが見つからなかった。途方に暮れての帰り、狐が温泉で腫れ物を癒していたのを見た。源泉には白い鯉の群れがいた。漁師は源泉を持ち帰って母の腫物に付けたところ快方に向かった。「鯉温泉」の由来である。

生地温泉に行く途中、白馬岳から日本海の親不知に下る豪快な「梅海新道」の稜線が見えた。白馬岳の三国境から雪倉岳を経て朝日岳、黒岩山へと下るハードな稜線だ。私は学生の頃の3月初旬に下降した。

宿泊は生地温泉(いくじおんせん)の「たなかや」だ。「たなかや」は明治44年(1911年)の創業。「たなかや」は詩人田中冬二の父の本家だ。「たなかや」には田中冬二資料展示室がある。生前の田中冬二は語る。

「黒部の生地は良い所です。私は、東京に住んで居ますが、本籍は生地から離しません。私は、あくまでも越中人として生きたいのです。」

越中の国には郷愁を感じていたのだろう。

生地温泉には上杉謙信の開湯伝説がある。「たなかや」の湯殿には生地温泉の由来が書いてある。

「天文年間、長尾弾正輝虎公(後の上杉謙信公)は旅僧に扮して当地に至りたまたま脚気症の為に路傍に倒る。この時、新治八幡の神夢によりて、ここに霊泉の湧出するを発見し欣喜して之に浴し且つ飲用せしところ忽ちにして、脚気と持病である胃腸も全快せり。この霊泉を源泉とし明治44年に生地温泉を開設する。」

上杉謙信は27歳の弘治2(1556)に、家臣間の内紛に嫌気がさして越後を出奔した。高野山を目指した。生地温泉の伝承は多分この頃の話だろう。結果は家臣が懇願し上杉謙信を越後に連れ戻し内紛は収まったとされる。

この時の上杉謙信の手植えの松が、黒部市生地経新のYKK株式会社の社有地にある。「庚申の松」として伝承されている。クロマツで樹高18m、樹幹6m。黒部市指定の天然記念物。支部の「巨木探訪」の山村孝夫さんは訪れたかな、と脳裏を過ぎる。

2月19日(月)。「たなかや」を出て、あいの風とや



展望と秘湯

ま鉄道生地駅前の「清水の里」と呼ばれる湧き水に寄る。黒部川の自然水が噴き出したもの地元に親しまれている。

朝日町の「たから温泉」に寄る。たら汁が有名。泉質はナトリウム・カルシウム塩化物泉同じく近隣の境温泉にも立ち寄る。

その後、庄川湯谷温泉の一軒宿にたどり着いたが、「冬季は休業」だった。田中昌二郎さんが、上田闊三郎さんと過去に来たことがあるという。上田さんは支部のもう一人の「温泉マニア」だ。上田さん畏るべし。

今回参加の往年のクライマーたちも歳を重ねた。こんな山旅も良いかもしれない。

実施日：2024年2月18日(日)～19日(月)

参加者：幣内規男(L)、伊原哲士、杉本順之、田中昌二郎

心のふるさとの山 △ 山の部屋

久々の高峰山、東麓ノ塔山、雪上ハイク

竹下節子

始まりは2000年、西暦と同じ高さの標高2000mの山に登ろうと考えた時からだった。それから毎年ふるさとに帰るような思いで高峰高原行きを計画した。友人が教えてくれた冬の高峰高原の山々が大好きになってしまった。最初はクロスカンツリーで池の平まで雪原ハイク、不慣れで大変だったことを思い出す。宿の前にはアサマ2000のスキー場、宿からスキーをはいて直接グレンデに滑って行ける。周囲にはお手頃な山々が幾つかあって晴れた日は雪山をのんびり楽しめる。晴れた夜には星空観察。また宿周辺に来る小動物や小鳥の多さに感激してしまって高峰にはまってしまった。

温泉はもちろんのこと。私の高峰高原行きはこうして始まった。

3年間ほど続いたコロナ禍が治まって概ね自由に外出ができるようになった。

そして2024年1月31日、高峰行き再開。京都駅八条口、22時過ぎの小諸行きバスに乗り。小諸駅へ着いた。高峰マウンテン行きのバス時刻までかなりの時間待ちをする。いつしか朝早くから開いているうどんのお店を見つけて、そこで暖かい朝食を頂くのが恒例になった。30分ほど待ち時間を費す。駅裏には藤村の懐古園が駅から歩いて10分にあるが、開園は9時で残念。なので、駅周辺を散策したり、帰りの深夜バスまでの時間つぶしの場所を探したりして退屈な時間を過ごした。そして8時53分発の高峰マウンテン行きバスに乗りアサマ2000パークに9時30分頃によく着く。雪上車に乗り換えて高峰温泉まで運んでもらう。以上は毎年恒例のこと、初めての方にはこの説明は省けない。たいがい「2時間待ちには憤慨される」さらに今回は2泊3日の日程なので着いてすぐの行動だ。すぐさま身支度をして荷物を預けて眠気覚ましのコーヒーを頂き。標高1950mから山頂2106m、高峰神社2086mまで往復の雪上ハイキングへ出かける。

2月1日 登山口11時15分出発、今年初めての雪を踏みしめる。やはり良いものだ。足裏から伝わる雪は最高、キュキュッと鳴れば嬉しくなり五感で音を楽しむ。お天気も良くて景色が映える。スキー場を左に見上げながら高度を上げていく。高峰ブルーと霧氷の樹林の間を進むとスペシャルな風景だ。雪が思ったより多くてストレスなく歩ける。さらに高度を上げて東の奥に目をこらすと、遙か遠くに富士山が見える。が、今回は見えなかった。それでも白い山並みを見て歩くだけでも心が晴れた。ふるさとへ帰ったような気持ちになれる。次第に心がほどけて足取りのんびり心ものんびりこれ以上の快適さはないくらいの開放感を放ちながら歩いた。山頂に近づくと強風が吹く箇所があるが無風で難なく通過した。徐々に空が広がると頂上は近い。尾根伝いに岩場が少々続くのでアイゼン歩行は要注意、12時30分山頂で記念撮影をしてこの先の高峰神社でランチをとった。パンとおやつでお腹を満たし。周囲360°の景色をスマホに収めて無事に下山した。

次の日2月2日は宿から時計回りで東麓の塔山標高2227.91mまでの往復をスノーシューで行く。今日は富山から仲間が1人増えた。最初は2人増える予定が、その弟さんは登山からスキーに変更したので女子3人の山になった。

9時20分出発。辟易とする林道歩きがつづく。つぼ



高峰温泉から高峯山への分岐



東麓の塔山山頂にて (2227.91m)

足で行けるといいがとんでもなかった。足を置くと凸凹沈んでしまって歩きにくく。スノーシューを装着して歩く。1950mから2061m地点、池の平までの緩い坂道を約3kmは疲れた。そしてここから登りになる。2、3人の下山者に出会ったがつぼ足だった。私たちはスノーシューで登る。最初は平坦なアップダウンの繰り返しで2100m手前から傾斜がきつくなる。やがて急登になりスノーシューは邪魔になった。頂上直下は急傾斜の雪面から出た岩場を縫って歩くので気をつけて歩いた。12時15分に山頂に着いた。上空は快晴である。澄み切った紺碧の空に息を呑んだ。美しすぎる。ところが、急な寒さは強風と共に半端なく襲ってきた。それでも暖かいものを飲んで体を暖めしばしの休憩をした。ランチタイムは池の平でとることに決めて下山の途につく。寒かったが周囲の景色は見逃さず皆なスマホに収めた。スノーシューは外して背中ザックにくくりつけて12時45分下山開始。岩場を避けてすすみ元来た道に降りる。夏道のグリーンのロープを掴んで急なところは降りた。後は来た道を帰るから気持ちが楽になる。雪の落とし穴に落ちない限り安全だ。しか

しながら帰りの長い道のりは避けて通れない。帰ってアルプスを眺めて貸し切りお温泉に入れることと4人揃って最後の美味しい集いが待っていることを想像しながら宿に帰った。
「さあ～温泉に入ろう」・・・

久々の高峰山と東麓の塔山は密度の濃い半日と1日になった。

こうして元気でいつまでも高峰高原に通い続けたい。年を重ねても場所を選べば行ける。高峰は最高によい所だ。言うなれば「心のふるさと」の呼び声のようなものだ。

実施日：2024年2月1日（木）～2月2日（金）
参加者：藤網珠代、竹下節子、（友の会）北村修子

インタビュー「この人に聞く」

第3回 薬師義美顧問

聞き手：野村綾子

1936年富山県生まれ。

1972年『ヒマラヤ関係図書目録』を発想から12年、自ら欧文タイプライターを叩いて完成。その後カードを追加し、1984年『ヒマラヤ文献目録』（白水社）を刊行。さらにカードが追加されて1994年刊行された大改訂増補の新版『ヒマラヤ文献目録』は第一回ゲスナー賞銀賞（1997年）を受賞。また、日本山岳会 第一回秩父宮記念山岳賞（1998年）を受賞。

*ゲスナー賞：編纂に膨大な時間と労力が必要とされる目録・書誌づくりにおいて、その著作や研究活動を広く世に知らしめ、優れた作品を顕彰することを使命としたアワード。雄松堂書店が創設。書誌学の父コンラート・ゲスナーに因む

—『ヒマラヤは黒部から』をとっても興味深く、緊張しながら読ませていただきました。

1956年7月～8月朝日岳より西穂高へ北アルプス全山縦走 行動12日間予備4日で160キロを踏破。この縦走に二人用の米軍テント、米2人で18kg、乾パン20人食分、燃料ガソリン4.5ℓを用意して45kgの重荷を背負って歩かれたそうですが、今の装備を考えるととんでもない重さですね。靴はビブラムソールだったと



か、当時にビブラムソールはあったのですね、やはり鉄靴とはずいぶん違いますか？

当時はビブラム底の登山靴が次第に普及し始め、鉄靴と比べて軽くなったし、岩場でのフリクションはよく利きました。今はこれが普通ですね。

—この縦走中「黒四ダム建設の発破音が籠川谷からとどろいてきた」ということですがダムの建設をどう思われましたか？

複雑なものでした。資源の少ない日本では水力エネルギーは大事です。しかし、自然（美）の破壊があってもいいということにはならないでしょう。

—黒四ダムの出来る前と後の黒部の違いについて何か思いはありますか？

黒部の電力はほとんど関西に来ています。このダムのお陰で観光とはいえ毎年たくさんの方がアルペン・ルートで黒部を横断し、北アルプスの一部でも見て知ることは大変いいことだと思います。

—黒部の中でどこから見る景色が好きですか？

かつての下の廊下。今は見る影もありません。遡行するとなれば上の廊下と支流の北又谷と柳又谷の上流部でしょうか。

（黒部が溪谷のなかの白眉とされたのは、磨きあげられた花崗岩の川床と、そこに踊る清流、そして「廊下」と呼ばれる特殊な地形に森林美が加わったからであると表現されていますね。）

—『遙かなるヒマラヤ わがネパール踏査行』に1965年9月～翌年2月のネパール・ヒマラヤの5か月を纏められていますが、ネパール当局の登山禁止令が出たけれど計画していた処女峰を目指して観光ビザで入国、その後、3回滞在延長をして5か月間、ネパールの自然と人間社会を観察できたということですが、身の危険を感じるようなことはなかったですか？

危険ということは全くありません。

インドのボンベイ（現ムンバイ）に入港したとき、印パ戦争が始まり、どうなることかと案じましたが、何とかネパールに入りました。アンナプルナの山中ではチベット人ゲリラのキャンプやそのメンバーと会いましたが、何事もなくスムーズでした。山中では警察や軍のチェックポストでトレッキング許可証のチェックを受けました。しかしトラブルはほとんどなく、現地の人たちに友好的に大変お世話になりました。

—最後に伝えたいこと、支部への希望がありましたら、お聞かせください

時間と費用を用意し、仲間を作り、大いに出かけてください。

—ありがとうございました。またお話を聞かせてください。

図書紹介

『芙蓉の人』(新田次郎著)

竹下節子

新田次郎の山岳小説である。

初版1971年(昭和46年)5月10日発刊、文藝春秋発行。

約半世紀前、日本が高度成長期に入り世界第2位の経済大国に成長した頃である。1970年には大阪万博が開催され世界中の先端技術や文化が集結された。1969年の東京オリンピックの年には富士山山頂に富士山レーダー（富士山測候所）の設置がされ話題となった。（2004年には富士山レーダーは気象衛星の登場で廃止）

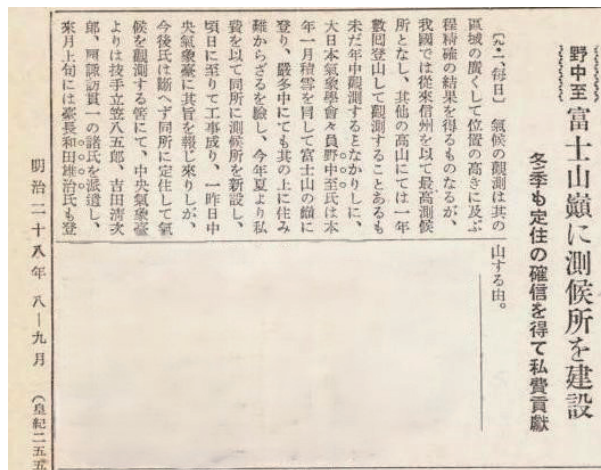
日々の暮らしに欠かせない天気予報。今は当たり前のようにになっているがその過去には命を掛けた人々の苦闘の時代があった。思い出すといたたまれない気持ちが湧き出てくる。それは富士山を憧れて登ったのではなく。日本の未来のために天気予報をより正確なものにしようとする初めての富士登山に挑んだ人々だからである。

今回ご紹介したい山の本は『芙蓉の人』

明治期に、富士山頂で高度気象観測に成功した野中到ご夫妻を題材にした山岳小説である。1895年8月には私財を投じて富士山頂に日本初の気象観測所を建て、前人未到の冬期観測を実施した。このような経緯があったからこそ今日の天気予報が概ね正確になり日々の生活に役だっている。

また明治の女性は女らしく慎ましくの時代。富士山頂に立つなど言語道断、許されなかった。それを奇しくも果たした奥様（千代子）はもう一人の主人公として賞賛したい。

読んでください。



行 事 案 内

- ◇ 山行への参加申込は、例会名、会員番号、氏名、年齢、電話番号等、緊急連絡先および山岳保険の加入・種類など必要事項を記入の上、メール、または FAX、郵送で。
- ◇ 「★マイカー分乗」の山行は参加者の自家用車利用を予定しています。ご協力をお願いします。
- ◇ 思わぬところで遭難事故が発生します。車両保険と同様、また、ご家族のためにも山岳保険の加入は登山者の常識です。会員各位のご理解をお願いいたします。

写真サークル

京北 片波川源流域・伏条台杉群生地

実施日：2024年6月23日（日）

集 合：阪急西京極駅前 朝8時

担 当 者：野村綾子

申 込：6月15日までに担当者へ

メール：cerile@nifty.com

京都府自然環境保全地域に指定されており、原則地元ガイドの随伴が必要です。

ガイド料1名4000円程で参加人数により変わります。10名まで。

所要時間は約4時間、林内はゆっくり歩いて3時間程です。

大文字山納涼山行

夕暮れの古都。京都の夜景を眼下に納涼のひと時を愉快地に楽しく過ごしましょう。

ご本人やそのご家族及び友人知人等のご参加も歓迎します。

銀閣寺から大文字火床迄の往復です。

京都市内や大阪市内の夜景を楽しみ乍ら持ち寄り会食を楽しみます。

実施日：2024年7月27日（土）

集合場所：銀閣寺正門（時間厳守）

集合時間：17:30

解散予定：20:30

担 当 者：真名子栄一

参加申し込み者は下記メールへ氏名年齢をご報告下さい。

Email：Em8787.Motherlake.biwa@nifty.com

Mobile：em8810k-2@docomo.ne.jp

※自分自身の食事・飲み物（アルコール可）及びヘッドランプ又は懐中電灯は忘れずに。

歴史と文化の山旅

三重松阪城跡と本居宣長を訪ねる

（小雨決行）

松阪城は天正16（1588）年に織田信長の女婿である蒲生氏郷によって築城された平山城。現在も野面積みの石垣が残る。城跡からは城下町の面影を残すまちなみが一望出来る。

江戸時代の国学者の本居宣長は、当時、既に解読不能だった『古事記』を35年かけて解読して『古事記伝』を著しました。『古事記伝』は、単なる『古事記』の註釈書としてではなく、のちの古代史研究にも大きな影響を与えました。松阪に本居宣長の軌跡を訪ねます。

実施日：2024年8月17日（土）

集 合：近鉄松阪駅改札前 午前10時

行 程：〈大阪から〉近鉄大阪難波駅（7:42 発近鉄奈良線快速急行奈良行き）－（7:47 着）鶴橋駅（乗り換え）－鶴橋駅（7:53 近鉄大阪線急行松阪行き）－（9:57 着）松阪駅－
〈京都から〉近鉄京都駅（7:15 発近鉄京都線急行橿原神宮前行き）－（8:16 着）大和八木駅－（乗り換え）－大和八木駅（8:31 近鉄大阪線急行松阪行き）－（9:57 着）松阪駅

山行の目安：体力1、技術1、歩行時間約4時間

昼食弁当 雨具 持参

交通費概算 約4000円

担当者・リーダー：伊原哲士

電話：0743-54-6685 メール：iharajac@hkg.odn.ne.jp

北山探訪（マイナーピーク）

奥ノ谷山 △811m

実施日：2024年9月7日（土）

集合場所・時間：参加者に連絡

行 程：美山町田歌⇒ツバタ水谷経由⇒743P⇒奥ノ谷山山頂⇒往路下山

地形図：1/25000 図「中」

山行の目安：体力2、技術2 注）少々藪漕ぎあるかも

担当者・リーダー：八木 透
メール：yagi-to@bukkyo-u.ac.jp

申込：8月31日（土）までに所定事項記入の上、
メールで担当者まで

伝承と信仰を学ぶ山旅

① 賤ヶ岳 △ 421m

実施日：2024年9月29日（日）

集合場所・時間：参加者に連絡

行程：余呉駅⇒賤ヶ岳山頂⇒余呉湖西側の尾根⇒川
並集落⇒余呉湖畔

地形図：1/25000 図「木之本」

山行の目安：体力2、技術1

担当者・リーダー：八木 透
メール：yagi-to@bukkyo-u.ac.jp

申込：9月20日（金）までに所定事項記入の上、
メールで担当者まで

会務報告 支部役員会

第457回日本山岳会京都・滋賀支部役員会議事録

日時：2024年2月7日（水） 場所：鴨沂会館
101号室

出席：15名 欠席：3名

1. 支部長挨拶

- ・今回は、次期役員と総会対応事項について意見交換、
整合を進めたい。

2. 報告

- ・1月17日（水）、支部新年会；南禅寺「順正」 参加者：
33名
- ・1月20日（水）、山水会講演会（兼、山の日イベ
ント）；京都市職員会館「かもがわ」、参加者：40名、
懇親会参加者：27名。
- ・1月23日（火）、北山探訪；灰屋山、参加者：6名、
報告：今中会員。
- ・1月27日（土）、健幸登山教室；赤坂山、参加者：
6名、報告：村上委員。

（京都・滋賀支部関係）

□ 支部長報告

- ・斎藤顧問からの高額寄付について
- ・1月29日、本部から当支部口座へ100万円振込あり。
- ・本部関係
- ・1月理事会（1月18日開催）より
JACアドレス（グーグルワークスペース）の設定、
試行：1月15日から利用可能

□ 事務局長報告

- ・令和6年度事業計画（本部向け）報告：1月31日
済

□ 部会等報告

- ・総務部会報告（各担当委員）
- ・会員動向
- ・会計
- ・2月5日現在2023年度会費納付状況：+2名
- ・会員：115/130 +1、準会員：2/3 0、会友：
6/9 0、友の会：27/34 +1
- ・HP
- ・友の会集約決定に沿った変更（申込みページは隠す、
リンク解除等）を行う。
- ・支部だより
- ・154号、2024年3月15日発行予定（原稿締め切り
は1月31日）、担当：竹下委員
- ・図書（竹下委員）
- ・新書46冊をホームページにアップ。移動図書は継
続する。
- ・海外部会（浅原委員）
- ・ネパールへの航空券は、コロナ前の3倍と高騰。
- ・山行部会（笠谷支部長）
- ・3月原案完成、支部だより発送時同梱送付。
- ・自然保護部会（幣内副支部長）
- ・支部の部会としては当面休止とすることを提案。
- ・古道調査プロジェクト（村上委員）
- ・日本山岳会 熊野古道集中山行：山と同封しパン
フレット配布済。
- ・古道調査報告の日本山岳会ホームページでの試験
公開。
- ・出版関係（藍野委員）
- ・A4サイズでの出版を実現するために必要な写真や
歴史的図版の収集は、現況（保有コンテンツ、リソー
ス、出版社の対応等）では無理。集めた原稿等は
有効利用可能なので、廃案ではなく休眠とすること
を提案する。
- ・新聞連載掲載企画（八木監事）
掲載は第2金曜日
- ・1月：賤ヶ岳（担当：八木監事 / 1月12日掲載）
- ・今西錦司レリーフを守る会（駒井委員）
- ・5月12日（日）に例年通り実施予定。
- ・2024年度支部総会
- ・2024年4月6日（土）、会場：鴨沂会館
- ・13時30分～14時30分の為、講演会、懇親会は
実施しない。

（全国他支部関係）

- ・日本山岳会 熊野古道集中山行
- ・ルート毎に設定、5月18日（土）15時 大斎原集

結、19日解散

- ・第37回全国支部懇談会
- ・担当：神奈川支部、5月25日（土）～26日（日）；平塚市
- ・第38回全国支部懇談会及び関西支部設立90周年記念式典
- ・2025年10月26日（日）～27日（月）、大阪ガーデンパレス

(その他)

- ・次年度支部役員・委員について
- ・基本的には留任をお願いする。宇都宮さんからは年度末での退任、例会に良く出席されている方を中心に新たに委員就任を依頼する。(笠谷支部長)

第458回日本山岳会京都・滋賀支部役員会議事録

日 時：2024年3月6日（水） 場所：鴨沂会館 101号室

出 席：11名 欠席：8名

1. 笠谷支部長欠席のおわびを書面にて。

今回は伊原事務局長の指示で議事進行。(議事録作成：竹下)

2. 報告

- ・2月17日(土)、スキー山行：若狭駒ヶ岳 参加者：6名 報告：藤綱。
 - ・2月18日(日)～19日(月)、山岳展望と秘湯の旅「剣岳・立山展望 鯉温泉」
- 参加者：4名 報告：伊原

(京都・滋賀支部関係)

支部長報告

遭難案件

- ・2月11日、北アルプス涸沢岳付近にて岐阜支部所属の2名パーティーが遭難。救出に至らず。

本部関係

- ・橋本会長による事業計画ヒアリング (ZOOM)
- 京都・滋賀支部：2月16日支部現況、次年度計画等報告、意見交換。支部出席者：笠谷支部長、藍野委員
- ・初級者向け登山講習会の案内 (本部主催)

ZOOMで受講可能、URLは支部HP掲示板記載

- ・3月28日（木）、支部連絡会議；ZOOM、開催予定
- ・2023年度特別事業補助金。2024年度は申請せず。2023年度で事業は終了。
- ・書籍受け入れ「かながわ山岳誌」神奈川支部より送付頂く。図書委員へ
- ・支部メール (kyt@jac.or.jp) 設定は本部等の連絡用として支部長、事務局長は必須。支部会員の使用可。設定希望者→パスワードを支

部長よりいただく。設定方法は本部HP、会員専用ページホーム > 支部専用メール設定マニュアルを閲覧。(八木さん、浅原さん設定希望)

□ 事務局長報告

- ・令和6年度事業計画 (本部向け) 報告：1月31日 済
- 部会等報告
- 会計
- ・3月6日2023年度総会会計報告作成中 (仲井、宇都宮)
- ・郵便切手の大幅値段改正。10月に実施、経費増。
- HP
- ・デジタル化案継続、経費削減案進行中、郵送料値上げが必至。
- ・友の会集約決定 (2025年3月) に沿った変更を行う。(申し込みページ、リンク解除)

支部だより

- ・154号3月15日郵送作業
- ・155号、2024年6月15日発行予定 (原稿締め切りは4月30日)、担当：幣内副支部長
- 図書 (竹下委員)
- ・支部だよりNO154に新書アップ報告。移動図書館2月、4冊貸し出し。
- ・支部だより154号の図書紹介は八木監事、急遽、藍野委員が執筆。
- 山行部会 (笠谷支部長)
- ・3月原案完成、支部だより発送時同梱送付準備完了。自然保護部会 (幣内副支部長)
- ・支部の部会としての活動を行うことは次年度からしばらく休止。
- ・支部として窓口は必要。(笠谷支部長)
- 古道調査プロジェクト (村上委員)
- ・日本山岳会 熊野古道集中山行：山と同封しパンフレット配布済。申込期限：3/末
- 現在、参加者は30人ほどなので声かけ願う。
- 出版関係 (藍野委員)
- ・京都新聞社 A4サイズでの出版案は、廃案ではなく一時休眠とする。(継続)

新聞連載掲載企画 (八木監事)

掲載は第2金曜日

- ・2月：七々頭ヶ岳 (担当：松下委員 / 2月9日掲載)
- ・3月：比叡山 (担当：八木監事 / 3月8日掲載予定) 3月で終了
- 今西錦司レリーフを守る会 (駒井委員)
- ・5月12日 (日) に例年通り実施予定。

(京都・滋賀支部関係)

支部だより発送作業と、サロンの懇親会

- ・3月15日 (金)、17時～；長岡京市生涯学習センター、

担当：幣内副支部長

2024 年度支部総会

- ・2024 年 4 月 6 日（土）、会場：鴨沂会館
- ・13 時 30 分～14 時 30 分
- ・講演会、懇親会は実施しない
- ・支部長の総会準備アイテムに基づき役割確認。

★司会、(駒井委員)

以下敬称省略

- ★案内状、切手なし作成準備済、返信とりまとめ（伊原）
- ★受付、人数確認（竹下、藤綱）
- ★今西錦司賞（斎藤顧問へ確認）未了 伊原事務局長
- ★会場設営 13：00～全員集合
- ★総会資料作成、笠谷支部長・収支決算書監査報告、収支予算案（宇都宮、笠谷、仲井）
- ★補足資料、笠谷支部長 ★支部だより用、本部用報告作成（未了、次回役員会持ち越し?）

(その他)

- ・次年度役員、委員は現状維持を要請（伊原事務局長）
- ・役員体制変更なしの方向、支部規約の改訂は役員会論議未了の為、見送り。
- ・今年度の今西錦司賞について、斎藤顧問に確認未了（伊原事務局長）
- ・個別内容は 3 月役員会で整合
- ・斎藤顧問からの高額寄付について（用途は限定せず支部活動全般でとのご意向）
用途詳細は未定、会員獲得のための若年世代への入会金助成、HP デジタル化改新など、今後の財政難を意図した意見を出し合った。（何を先にするか、今、すぐできることは何か）

第 459 回日本山岳会京都・滋賀支部役員会議事録

日 時：2024 年 4 月 3 日（水） 場所：鴨沂会館 101 号室

出 席：14 名 欠席：3 名

1. 八木透監事より支部委員会らに笠谷支部長からの伝言

笠谷支部長は体調不良により、支部長の続行は不可とのこと。支部長を辞任、総会終了後に京都・滋賀支部を退会し本部所屬下に籍を残す。

2. 報告

- 3 月 16 日（土）～17 日（日）、歴史と文化の山旅「岡山の城めぐりの山旅」中止
- 3 月 23 日（土）北山探訪；ホサビ山 中止

3. 京都・滋賀支部関係

□ 新支部長報告＝本部承認まで暫定

次期支部長の選出。幣内副支部長を次期支部長として選出。

新支部長は前支部長の意思を受け継いで、皆の力を借りながら楽しめる京都・滋賀支部にしたい。来期山行計画の笠谷支部長担当例会が無くなるので皆で例会を増やしカバーすることを要請。本部は現状を踏まえ、会員管理システムの更新や本会会費改正、オンライン化推進など会員の利便性の向上に向けて変革をはじめている。今後 JAC は変わっていくことを念頭において活動する。

□ 事務局長報告

- ・総会に向けて副支部長の後任と、役員の調整
- 副支部長選出 駒井委員が新支部長より副支部長に任命された。
- 会計、仲井委員、会計宇都宮さん欠員あとは伊原事務局長と野村監事で補助する。
- 村上委員は退任。例会はサポートする。

□ 部会等報告

- ・総務部会報告（各担当委員）
- ・会計・・・決算報告、八木監事、野村監事により監査承認された。
- ・支部だより
- ・154 号、2024 年 3 月 15 日発行予定（原稿締め切りは 1 月 31 日）、担当：竹下委員 発行済
- ・155 号、2024 年 6 月 15 日発行予定（原稿締め切りは 4 月 30 日）、担当：幣内副支部長
- ・山行部会・・・来期計画の立て直しが必用。
- ・遭難対策部会（駒井委員）・・・後任は土井委員の方向で検討
- ・自然保護部会（幣内副支部長）・・・活動一時休止中
- ・古道調査プロジェクト（村上委員）
- ・2020 年から 2024 年の古道調査報告書を作成、古道表題見出し、総括を会員様へ総会にて配布する。
- ・出版関係・・・八木監事より当初予算 ¥280,000 をベースにレイアウトを変更して自費出版の提案あり。経費節減も可能。
- ・新聞連載掲載企画（八木監事）
掲載は第 2 金曜日
- ・3 月：比叡山（担当：八木監事 / 3 月 8 日掲載）
(2024 年 3 月で連載終了)

(その他・関連情報)

- ・京都府山岳連盟イベント
「ぐるっと一周トレイル」約 100 名が参加。うさぎさんチームとカメさんチーム分かれて実施された。

＝ あ と が き ＝

支部だよりの、編集担当もメンバーが替わり、3名の女性編集者が、参画してくれました。メリハリの効いた素晴らしい会報が、出来ることと期待しています。会員の皆様も、自由でご意見、ご要望、掲載記事の投稿お願いします。

毎日のTV報道に、山岳遭難、滑落、道迷い、救助要請などが、痛ましい事故が伝えられます。その犠牲者は、大半が中高年層人達ですね。今はお金さえあれば、道具も装備もすぐに手に入りますが、その優秀な物も、取扱説明書よく読んで、何回も使いこなしてから入山しないと、宝の持ち腐れですね。山登りは、独学では、学べないことが、非常に多いスポーツだと思えます。

良き先輩、良き指導者に、良き仲間といっしょに、楽しく登山してください。楽しく山行したあとは、記録を記事にして、支部だよりに投稿お願いします。

幣内

＝ 次号 156 号 予告 ＝

2024年9月15日発行 原稿締切7月31日(水)

原稿送付先 編集担当 野村綾子

メールアドレス cerile@nifty.com

令和6年度 支部会費納入のお願い

支部運営のため下記の会費を9月末までに納入していただくようお願い致します。

支部年会費 会 員 : 2,000 円

会 友 : 2,500 円

友の会 : 3,000 円

振替口座 ゆうちょ銀行

01070-3-33177

日本山岳会京都・滋賀支部

振込み用紙に住所、氏名に加え会員番号を明記してください。

日本山岳会京都・滋賀支部会報「支部だより155号」

発行所 〒610-0121 城陽市寺田今堀20-6

幣内規男方

日本山岳会京都・滋賀支部

発行者 幣 内 規 男

編集者 幣 内 規 男

印刷 〒603-8148 京都市北区小山西花池町 1-8

(株)土倉事務所

TEL 075-451-4844 FAX 075-441-0436

京都を学ぶ

京都学研究会 編

(代表：金田章裕 京都府立京都学・歴史館館長)



丹波編
山国京都丹波を再発見！明智光秀の統治、グンゼと蚕糸業、保津川下り、福知山鉄道など…

洛西編
名勝嵐山で知られる洛西。桂川、渡月橋、竹林、蚕の社、木島神社、天龍寺に代表される庭園文化など…

洛東編
牛若・弁慶伝承、足利義政と銀閣（東山山荘）、清水焼と登り窯、京都人の愛する鴨川など…

伏見編
秀吉の「首都」伏見城下の姿、消えた「巨椋池」の物語、船宿の実態、日本酒ブランドと酒米など…

宇治編
平等院はなぜ宇治にあるのか、源氏物語に見る宇治、戦場としての宇治、宇治茶の科学など…

丹後編
雪舟「天橋立図」にみる中世丹後、舟屋の歴史と観光化、近世漁業と伊根浦の捕鯨など…

洛北編
北山のヤママユ、葵が繋ぐ賀茂祭と將軍家、大原勝林院の秘仏、雑煮と納豆餅の関係など…

南山城編
古来より京都と奈良を結ぶ回廊地域・南山城。木津川、緑茶、恭仁京、飛鳥仏教、流れ橋など…

海の京都「徹底探究」
京都の海と「徹底探究」

A5判・並製・184～242頁 各 2,420円(税込) ❖以下続刊

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町 15 <https://www.nakanishiya.co.jp/>

電話 075-723-0111 FAX 075-723-0095 表示は税込価格です



【木津屋橋本店】

〒600-8248

京都市下京区大宮通木津屋橋下ル

営業時間

月～土 10:00～19:00

※日 10:00～18:00

休日

無休(年末年始および夏期)

1F/ 一般車コーナー

075-341-7702

2F/ スポーツ車コーナー

075-341-7703



●旧会員証でも構いません●

日本山岳会 会員証のご提示で
店頭価格から御値引いたします!

※特価品・SALE品は対象外です。
詳しくはスタッフまで!

取扱い
ブランド

gan well

ANCHOR

inelli

vittoria

HED. DOLAN

PINARELLO

LOOK

ANCHOR

SCOTT

FOCUS

Wilier

corratec など